

やなぎっ子のみなさんへ

校長 萩原 哲哉

やなぎの子のみなさん、元気に過ごしてくれていますか。

急に学校がお休みになり、みなさんにお会いすることができず、先生方もさみしい思いで、時間を過ごしています。残念ながらお休みの期間も延長になり、皆さんにお会いできるのは、学年ごとの登校日、六年生は卒業式の日だけになってしまいました。それでも、「また、お会いできる日がある」ことを、嬉しく思い、今から楽しみに、待っています。

今回のようなことは、初めてです。それだけ病気の広がる力が強い、ということです。誰かが悪いのではありません。こういう、どうにもならないことが時折起きるのが、みなさんが生きる、この世界です。残念なことですが、こういう経験はまちがいなく、みなさんを「たくましく」してくれます。

今回のことで、「当たり前なこと」は一つもない、ということに気付くことができるはずです。「いつも通り」みなさんが登校し、勉強したり遊んだりして元気な声が響くところ、それが「学校」であり、今まではそれが当たり前のことでした。でも、今こういう状況になったとき、それがかけがえのない瞬間であり、かけがえのない仲間であったことに、気付けるのではないのでしょうか。「ありがとう」のことは、「有る」ことが「難しい」、めったにない、という意味があります。まさに、「いつも通り」は、「ありがたい」状況であったのだと、気付いてほしいと思います。

ところで、みなさんは、「やなぎっ子」。「やなぎの子」である皆さんには、優れた「能力」があることを、知っていますか。

それは、「逆境に負けない力」「ストレスに出合っても、自分の目標達成のために再び立ち上がる力」です。「回復力」とか「復元力」と言いますが、難しいことばで「可塑性」「レジリエンス」と言いますが、「元に戻る力」と言うのが、わかりやすいでしょうか。

片柳小学校の正門にある柳の樹。入学から卒業までの毎日、みなさんを見守ってくれています。お天気は晴れの日ばかりではなく、強い風や雨の日、雪の日もあります。大きな枝を持つ大木は、強い風を全身で受けたり、重い雪が積もったりすると、枝や幹が折れてしまうことがあります。でも、この柳の樹は、枝や葉をしならせて、つらい風や重い雪に耐え、それが過ぎ去れば再び元の姿のまま、葉を茂らせることができます。やなぎの子のみなさんは、今回いろいろなつらい思いをしたとしても、必ず元の姿に戻り、再びがんばれる力を備え持った、たくましい子どもであることを、覚えていてください。

保護者の皆様に申し上げます。

今回はやむをえない事情とは申せ、お子様にとって大切な学年の締めくくりの時期に、学校での教育活動を行うことができず、大変申し訳ございません。また、急な状況変化につき、それぞれお仕事の御都合などにも、御配慮いただいていることと、重ねてお詫び申し上げます。

現時点では令和元年度の登校日は、各学年一日のみの予定です。詳細は別便にてお知らせいたしますが、教職員一同、この一日を「かけがえのない日」ととらえ、大切にしていきたいと思います。御心配いただいております学習面につきましても、臨時休業期間から取り組む課題等も、準備を進めていますので、よろしく御理解賜れば幸いです。

一点、お願いがございます。お子様にとって自由に使える時間がたくさんになった時期。ぜひ、読書

に取り組ませていただきたく存じます。あいにく、学校図書館をはじめ、公共図書館の使用中止も進んでいるところで恐縮ですが、保護者の方が小・中学校時代に読まれた本、御家庭にある御家族の本など、「これ、読んでごらん。あとで感想、聞かせてね。」と、お子様に勧めていただくことで、この期間が有効なものになるものと思われまます。ぜひ御協力の程、お願い申し上げます。

また卒業生保護者の方々におかれましては、お子様の晴れの日、巣立つお子様の姿を御覧いただくこいことが叶わなくなりましたこと、申し訳なく存じます。卒業式当日の詳細につきましては、この後、具体的に御連絡を申し上げます。少しでも旅立ちの日、にふさわしい場づくりができるよう、思案を進めておりますので、併せて御理解くださいますよう、お願い申し上げます。

渦中の病気も、まだ蔓延している状況。御家族の皆様方に置かれましても、十分に御用心くださいますよう、お願い申し上げます。